

不起訴処分をした検察庁・不起訴処分をした検察官名・不起訴処分年月日は必ず記載してください
(不明のときは検察庁にお問い合わせ下さい)

1 審査申立書の記載方法

① 「申立人」

ア 「資格」については、申立人が「告訴人」、「告発人」、「請求をした者」及び「被害者」のうち、いずれであるか該当する□内に√印を付してください。

なお、亡くなられた被害者の配偶者、直系の親族又は兄弟姉妹の方は「親族」の□内に√印で示して明らかにし、被害者との関係が証明できる戸籍抄本等を提出してください。

イ 申立人が複数の場合には、この箇所それぞれの1人を資格、住居、職業、氏名及び年齢を記載した次に「ほか○人別紙のとおり」と記載し、別紙としてこれらの者の資格、住居、職業、氏名及び年齢を記載し、押印した書面を添付してください。

ウ 申立て後、申立人の住居に変更のあった場合には、直ちに連絡してください。

② 「代理人」

ア この箇所は、代理人によって申し立てる場合にのみ記載してください。また、その場合、「申立人」の押印は不要です。

イ 「資格」については、委任による代理の場合には「委任」を、法定代理人による場合には「法定」の□内に√印を付してください。この場合、代理人の資格を証明する書面として、委任による代理人の場合には委任状を、法定代理人による場合には戸籍謄本を添付してください。

③ 「罪名」

被疑事件がいかなる罪名にあたるか、その罪名を記載してください。

④ 「不起訴処分年月日」を記載してください。

⑤ 「不起訴処分をした検察官」

「地方」、「区」、「支部」、「検事」、「副検事」、「副検事」及び「検察事務官」の文字については該当する□内に√印を付してください。

⑥ 「被疑者」

被疑者が複数の場合には、この箇所にそのうちの1人の住居、職業、氏名及び年齢を記載した次に「ほか○人は予備欄記載のとおり」に人数を記載し、裏面の予備欄にこれらの者の住居、職業、氏名及び年齢を記載してください。

⑦ 「被疑事実の要旨」

申立人が告訴、告発等をした被疑事実又は申立人を被害者とする被疑事実を簡単に記載してください。例えば、「被疑者は、平成○年○月○日午後○時に、○○において申立人を殴打し申立人に対して、○○の傷害を与えた。」というように、誰が、いつ、どこで、誰に対して、どのような方法で、何をしたかを簡潔に分かりやすく記載してください。

⑧ 「不起訴処分を不当とする理由」

不起訴処分を不当と考える理由を簡単に記載してください。例えば、検察官は被疑者が盗んだという証拠がないとしているが、このような証人がいるから証拠は十分であるというように簡潔に分かりやすく記載してください。

⑨ 「予備」

審査に必要と考える事件の関係者がいる場合には、その氏名、住所等を記載してください。また、その他審査する上で参考になるような事項がある場合にも、記載してください。

2 審査に必要と考える資料がある場合

申立書に添付して提出することができます。

審査申立人は、審査事件について検察審査会に意見書又は資料を提出することができます。審査申立ての費用

費用は、一切要りません。